

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol.195
2015.12.20

特集

「大学の世界展開力
強化事業」に採択



NANZAN
UNIVERSITY



文部科学省 平成27年度「大学の世界展開力強化事業」に 本学の取組(上智大学・上智大学短期大学部との連携事業)が採択

2015年9月9日、文部科学省が公募した平成27年度『大学の世界展開力強化事業』～中南米等の大学間交流形成支援～に、上智大学・南山大学・上智大学短期大学部の3校が連携して申請した構想「人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム」が採択されました。

南山大学と上智大学、上智大学短期大学部は、ともにキリスト教カトリックの精神を基盤とし、それぞれ中南米諸国とは学生交換、学術交流など密接な関係を築くと共に、国際シンポジウムなどを通じた共同研究活動を行うなど、かねてより連携協力してきました。こうした連携を土台に、この事業では、以下のプログラムを実施することにより、国際高等教育連携交流モデルの確立を目指しています。

上智大学と南山大学が連携した中南米6カ国13大学との交換留学の促進

ブラジル(3大学)、メキシコ(4大学)、ペルー(1大学)、チリ(1大学)、コロンビア(2大学)、アルゼンチン(2大学)の6カ国13大学(南山については3カ国5大学)において、現地での短期プログラムを含む語学教育をはじめ、スペイン語、ポルトガル語、または英語による専門科目の履修(留学生と日本人学生がともに学ぶ共通科目)、あわせて現地日系企業等での海外インターンや日本語教育ボランティア活動等を組み込みます。

また、南米での短期スタディツアーでは、日本国内でも隣人として接する機会が多い日系人の出身社会と文化を学ぶ国際理解教育を行います。

3校による中南米での新たな短期派遣プログラムの開発と実施

教皇庁立ハベリアーナ大学(コロンビア)での「スペイン語集中コース」とペルー・スタディツアー「往還する南米日系人」の2コースを実施する予定です。

前者はスペイン語既習者向けのスペイン語集中語学研修で、参加者は渡航前にプレイメントテストを受け、レベルに適したクラスで学びながら、高度なスペイン語運用能力の習得とコロンビア文化への理解を深めるとともに、世界各国から参加した多様な文化背景をもつ学生と交流し、多文化への理解と適応力を高めます。

後者は、日本側連携3校の学生が共に参加するプログラムとして、ペルー・カトリック大学をホスト校とし、4校が連携して新規に立ち上げます。参加者は、日系人コミュニティへのフィールドトリップに事前研修として参加し、中南米からの留学生と交流するとともに、中南米地域や日系人社会に対する理解を深めます。ペルー派遣中は、ペルーの文化や歴史に関する講義を履修し、現地学生との交流を行うとともに、博物館や史跡訪問等のフィールドワーク、さらには現地の日系人コミュニティや日本語教育を実施している現地小学校での教育文化交流等も行います。

受入留学生と日本人学生が共に学ぶアクティブ・ラーニング・プログラムの開発と実施

上智・南山両大学では、日本とラテンアメリカ諸国を比較し、議論する科目(原則として受入学生の母語で行う)を新たに開講します。同科目においては、社会、文化、経済、教育等、様々な視点から日本と中南米を比較研究します。これらの科目は、①本プログラム受入学生が履修、②派遣学生が事前研修の一部として聴講/履修、③派遣学生が帰国後に履修、という仕組みを併せ持ち、この仕組みにより受入・派遣学生の交流が深まり、派遣中の学生と帰国済みの受入学生との現地での継続交流が可能になり、日本人学生の派遣先での、より安全な留学生生活を支える効果も期待できます。また、派遣学生が帰国後に履修する場合は、継続学習を促す効果があります。

この他、招聘研究者・専門家による英語でのアクティブ・ラーニング科目「人の移動と共生」(上智大学主催)については、公開講座として他大学学生や社会人も受け入れる他、OCW[※]に公開し国内外へ広く発信される予定です。

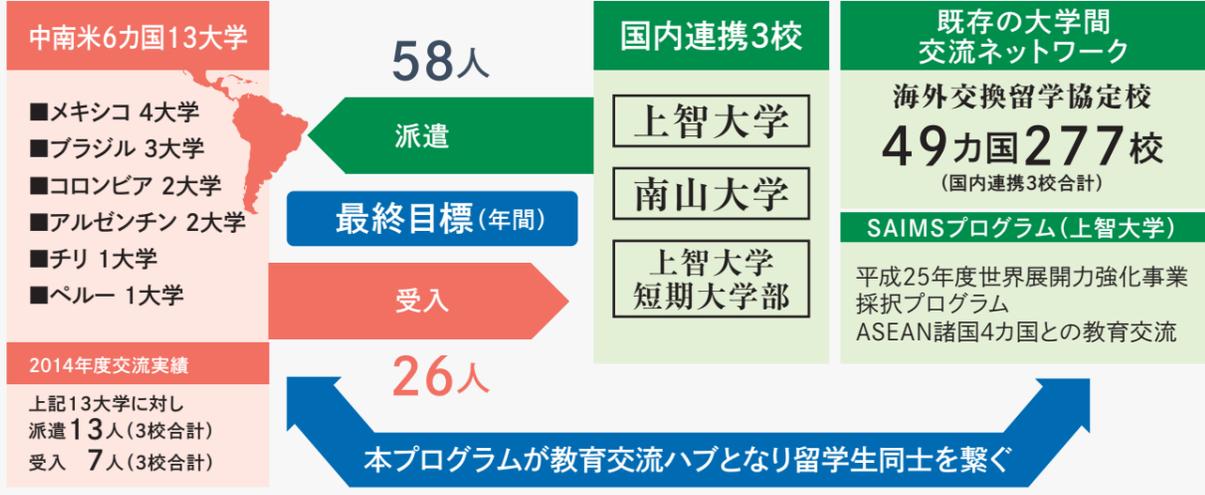
※オープンコースウェア:大学での講義やその関連情報をインターネット上で無償公開すること

受入・派遣学生への留学先におけるインターンシップ、サービス・ラーニング、フィールドトリップの提供

中南米と日本の学生がともに学ぶ共通科目、日系人が集住する静岡県浜松市や神奈川県秦野市の外国人学校および公立学校でのサービス・ラーニング・プログラム[※]、愛知県および東京近郊の企業でのインターンシップ・プログラム等を提供する他、プログラム参加学生合同フィールドトリップを実施します。

3月、8月に南山大学外国人留学生別科の日本語集中コース(新設)で学びながら、名古屋をはじめとする東海地方の地域性を体験した学生が、その後上智大学において正規課程での留学プログラムに継続して参加する可能性や、英語による既存の学融合型科目等において世界の留学生とともに学ぶ教育交流も期待されます。

※サービス・ラーニング・プログラム:社会活動を通じて市民性を育むプログラム



世界の大学とのさらなる連携に向けて

南山大学長 ミカエル・カルモノ

ラテンアメリカはブラジルやメキシコなど世界有数のカトリック教国を擁し、地域全体では4億2,500万人もの信者(全世界のカトリック教徒の約40%)が暮らす土地柄となっています。本事業で連携する13大学のうち、教皇庁立を含むカトリック系大学は8

校に及びます。ラテンアメリカ地域におけるカトリック系大学の社会貢献の歴史は長く、その多くが、各国を代表する大学として、教育・研究両面で高い評価を得ています。今回、日本国内では同じくカトリック系の上智大学・上智大学短期大学部と南山大学が連携し、文部科学省の支援の下、中南米地域との間で学生の派遣・受入プログラムを促進することとなりました。学生たちが日常的に触れ合い、ともに学んでいく中で、世界共通の課題を考え解決していく力を培い、海を越えての出会いが、一人ひとりの人生を一層豊かにすることにつながればと願っています。



養成する人材像

中南米の留学生、日本人学生、世界の諸地域からの留学生との学びあいを通じて日本並びに中南米社会の経済活動や文化交流を担う人材の育成に努めます。そこでは、人間の尊厳と多様性の調和の実現を目指す人材の育成を目的とし、自らの学問分野に立脚しつつ、人の移動に伴って高まる多様性と、同時に顕在化する社会的格差・文化摩擦などの地球的規模で取り組むべき課題を認識し、その解決に貢献できる人物を育成します。

「大学の世界展開力強化事業」とは

国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的としています。

私の研究



Domingos SOUSA (ドミンゴス スザ)
人文学部 キリスト教学科 教授

専門分野は、「キリスト教神学」、「真宗学・仏教学」。
研究テーマは、「比較思想」、「親鸞とキェルケゴールの思想」。
主な担当科目は、「神学的人間論」、「諸宗教神学」、「宗教思想」。

諸文化・諸宗教間の対話や相互理解

私の研究領域は、キリスト教神学と真宗学・仏教学にまたがっています。その中心は親鸞とキェルケゴールの思想の比較研究です。これまで親鸞とキェルケゴールの思想を研究課題とし、比較思想の立場から二人の思想家によって提起された諸問題を取り上げて研究してきました。

今日の世界では、科学・技術が大きく進歩する一方で、貧富の格差や飢餓、地域紛争や環境破壊など多くの問題が生じています。この重大な危機に直面して、人類が必要とするのは、平和の共存のための新たな価値観、ビジョンの創出です。人間の生き方を根底から問い直さなければならない現代において、比較思想の研究は、宗教・文化摩擦の回避や平和の実現に重要な寄与をなすものです。しかし、比較思想に伴う危険もあります。洞察と知識を与えると、同時に誤りと歪曲をもたらさうし、自分の利益を高め

たり、自分の主義をただ正当化するだけのために用いられたりすることもあり得るからです。これまでも比較思想は、しばしば他の伝統の劣勢と自己の伝統の優位を示すために、用いられてきたこともありました。多様な価値観が存在する現代において、諸思想や諸文化・宗教のそれぞれ独自の立場を保持しながら、如何に対話や相互理解を推進すればいいのかは、極めて重要な課題であります。結局のところ、諸宗教・諸文化間の対話や相互理解は、理論的に解明すべき問題ではなく、実践的な課題であると言えます。



筆者の著書
『親鸞とキェルケゴールにおける「信心」と「信仰」』
『日本におけるキリスト教』

私のクラス



小市 俊悟 (こいち しゅんご)
理工学部 システム数理学科 准教授

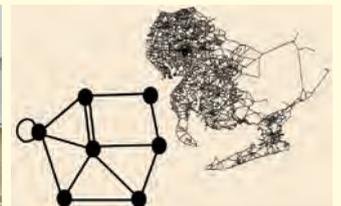
専攻分野は「離散数学」、「オペレーションズ・リサーチ」、「情報化学」。
研究テーマは「離散構造に関する効率的アルゴリズムの研究とその応用」。
主な担当科目は「数学演習A・B」、「幾何と離散構造A・B」。

つながりを大切にする「離散」構造

「グラフ」と聞くと、棒グラフなどを思い浮かべるかもしれませんが、今年度から始まった「幾何と離散構造」で取り上げるのは、それとはちょっと違ったグラフです。それは、下記右図のような黒丸で示された点と、その点と点をつなぐ線からなるものです。専門的には、線のことを「枝」と呼びます。そんなものが学問の対象になるのかとお思いかもしれませんが、この世の中、グラフと呼べるものはたくさんあります。例えば、道路網。交差点を点、道路を枝だと思えば、これはグラフです。電気回路や化学分子も、素子や原子を点、導線や結合を枝だと思えば、グラフ

です。これらを個別にとらえることも大切ですが、道路網と電気回路であれば、枝の交差が問題になりますし、電気回路と化学分子であれば、閉路や環が問題になるように、共通する問題も多いのです。

このような観点からグラフとして抽象化したものを対象にすることで、共通する問題をまとめて解決しようというのがグラフを対象とした学問分野です。グラフの点や枝は実数などは違って、「ある・なし」といったように離散的なものです。そこに「つながり」が加わることで、豊かな「構造」が備わります。「幾何と離散構造」とは固い名前ですが、点と点のつながりこそが重要であるグラフのように、学生とのつながりを大切に、問題解決に役立つ「グラフ」を中心に、学生が好奇心をもって取り組めるような授業を行いたいと思います。



INTERNATIONAL FRIENDSHIP



ASEACCU (東南・東アジアカトリック大学連盟) 学生会議に参加して

期間: 2015年8月25日~29日
場所: Soegijapranata Catholic University (インドネシア・スマラン)
参加者: 益田理央さん (外国語学部英米学科2年)
譚 雅さん (総合政策学部総合政策学科4年)

ASEACCU実施内容

ASEACCU[®]には、日本、オーストラリア、インドネシア、韓国、フィリピン、台湾、タイ、カンボジアといった東南アジア・東アジアの国や地域から、70校が加盟しています。8月25日から29日にインドネシアのSoegijapranata Catholic Universityで実施された2015年度ASEACCU学生会議には、8カ国から学生50名以上が集まり、「Catholic



Higher Education and Religious Inclusiveness”をテーマに学生たちはディスカッションやプレゼンテーションの発表を行いました。また、Service Learning^{®2}や実地調査など実際にそれぞれが体験しながら学べるツアーも含まれており、充実した内容となっていました。

- ※1 ASEACCU: The Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities
- ※2 コミュニティ・サービス活動と教科学習をつなげた社会貢献型の体験学習

益田理央さん感想

日本に住んでいるとなかなか宗教と自分との関係性を考える機会はありません。しかしこの学生会議の間は日々考えるというより感じていました。クリスチャンの学生は食事をする前にしっかりとお祈りをします。イスラム教の学生はモスクの方に向かい毎朝お祈りをします。彼らは他の宗教を信仰する学生を尊敬しながらも、自分の宗教に誇りを持っています。これこそまさに宗教の包括性ではないかと私は感じました。相手のことを思いやり尊重しつつも、自分の宗教に誇りを持ってばきつこの世から宗教による争いはなくなると思います。たった一週間という短いインドネシア生活でしたが、とってとても貴重な体験をすることができました。カルマノ学長をはじめとする、関わってくださった全ての方に感謝しています。ありがとうございました。



譚 雅さん感想

ASEACCU学生会議に参加させていただいたことは、私の日本での留学生活にとって、一つの貴重な経験となりました。今回の会議では、「カトリック高等教育と宗教がもたらす包含性」というテーマに基づいて、アジア地域を中心に8カ国から学生が集まり、ディスカッションや講演会に参加しました。それらの参加者は、それぞれ異なる背景や文化を持ちながら、英語を通じて文化交流をしました。活動の期間中では、授業以外にも、田舎の村に泊まる機会がありました。そこで、地元の人には宗教を通じ、家族と住む環境に対する感謝の気持ちを常に持っていると感じました。また、全く知らない外国人である我々に対して親切で、歓迎してくれました。地元の生活を体験し、いつも感謝している態度を持ち、新鮮な目線で新たな人物と物事を受け入れることは、人間関係でも、人生に対することにも大切であると思いました。大学のおかげでASEACCU学生会議に参加させていただき、宗教の重要性とそれによる人間に与える影響を、この大切な機会を改めて考えることになりました。これからもこの会議で学んだことを生かし、世界と異文化の融和に貢献していけるように頑張っていきたいと思います。



南山大学経済学部と 財務省東海財務局が覚書を締結

南山大学経済学部と財務省東海財務局は、財政、金融の実情や政策に関する理解を深め、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成するため、連携して講座を開設することとなり、2015年9月18日に「寄附講座の開設に関する覚書」を締結しました。

この覚書締結により「経済政策論」の講座を2015年度秋学期に開講。財務本省および東海財務局などの現役財務省職員が講師として登壇され、財務省・金融庁の視点から「財政」「税制」「金融」等について講義を行っていただきます。



南山ビジネススクールと 日本証券アナリスト協会が 資格試験で提携

南山大学大学院ビジネス研究科(南山ビジネススクール)と公益財団法人日本証券アナリスト協会は、日本証券アナリスト協会が実施しているプライマリー・プライベートバンカー(PB)^{※1}資格試験について、大学院ビジネス研究科(南山ビジネススクール)に設置している講義科目のうちPB資格試験に対応する科目の単位を取得した者(専門職学位課程正規学生に限る)に、2015年度秋学期から資格試験の一部を免除することで合意しました。

この連携を通じて、南山ビジネススクールから多数のPB資格取得者が誕生することを期待しています。

※1 富裕層の資産を有効活用するために、金融商品の運用、効果的な節税策、不動産投資を組み合わせ、総合的にコンサルティングを行う業務

南山のDNA



神取 慶幸
経済学部経済学科
2005年度卒業

私が大学入学当初に立てた目標は、大学時代を大いに楽しむこと。そして就職時に世の中から求められる人材として卒業し、社会で活躍することでした。1つ目の目標は4年間で出会った友人と、所属していたE.S.S.(英語を使った活動をしているクラブ)の活動と、四季折々のグリーンエリアのおかげで見事に達成することができたように思います。2つ目の目標は今でも達成に向け日々努力中ではありますが、そのための下地の多くを大学で培うことができたのは間違いありません。

卒業した経済学部は1年生からゼミがあるのですが、私にとってはこれがとても有意義な授業でした。ディスカッションの多い講義形態のため、テーマを正しく理解し、自分の頭で考えて、理解してもらいやすい形でアウトプットする訓練のチャンスが多くあります。これは社会で求められる基本的ながら重

Profile

2002年に経済学部へ入学。苦学の末に4年で卒業した後は株式会社豊田自動織機に就職。大学卒業後10年の間に起った最も大きな変化はドラゴンズ派からグラブス派になったこと。

要な能力を磨くには最適な機会でした。また私の場合は4年間で3名の先生にお世話になりましたが、どの先生からも実践的で刺激的なご指導を頂くことができたのも本当に幸運でした。

卒業後は繊維機械を製造、販売する事業部で働いています。多くのお客様が新興国に居を構えていることもあり、入社後7年間に在籍していた営業部では1年の半分程を海外で過ごしてまいりました。今は企画部門においてインドを中心とした関連会社との業務が中心です。文化、背景の違う方たちとの業務は難しいことも多くありますが、大切なことは一緒です。相手の状況を正しく理解して、自分で考え、伝える言葉で伝えること。久しぶりに恩師に会うチャンスが来た時に「君は大学時代からアウトプットの質が変わってないんじゃないか?」だなんて言われぬように、今も精進の毎日です。



ウズベキスタンでお客様と



バングラデシュの展示会にて、信頼する仲間たちと

活躍する南山大生



国際学会で技術賞を受賞

2015年7月4日から6日に神戸市産業振興センターで開催された「International Symposium on Scheduling 2015」にて、本学数理情報研究科数理情報専攻博士後期課程3年の伊藤真理さん、本学理工学部の鈴木敦夫教授、愛知医科大学医学部の藤原祥裕教授が発表した研究論文が、2015年度スケジューリング学会賞技術賞を受賞しました。その授賞式が9月26日に青山学院大学で開催されたスケジューリング・シンポジウム2015で行われました。

受賞した研究論文は「Operating rooms scheduling system: A case study in Aichi Medical University Hospital」で、愛知医科大学病院手術室の使用スケジュールを自動的に作成するシステムの構築と、そのシステム有効性についての研究です。システムは試作段階とのことですが、現在のスケジュールより3つの点(手術室使用時間超過の削減、手術室の変更の減少、スケジュール作成の時間と時間の削減)で改善されたことを発表されたそうです。

伊藤さんは、「国際学会での発表だったので、英語を使って海外の研究者に私たちの研究について正確に伝える難しさを感じました。技術賞をいただいたのは大変嬉しく、これを糧に現在試作段階のシステムを実用化に向けて更に研究を進めていきたいです。」と今後の研究に意欲を見せていました。

経営学部の学生が南山グッズを作成

経営学部石垣ゼミナールの学生が発案し、それを引き継いだ南川ゼミナールの学生と学生交流センターの学生が、南山大学オリジナルグッズの開発・販売を行っている株式会社エヌイー・エスとの産学連携の一環で南山大学オリジナルグッズの商品開発を行い、2商品を発売しました。



第1弾は「ロゴ入りトートバッグ」。南山大学のスクールカラーであるNANZANブルーを使用したシンプルなデザイン、A4用紙が入る使い勝手の良い大きさで、機能性を重視した商品となっています。第2弾は「ロゴ入りプルオーバーパーカー」で、開発に参加した学生によると、出来るだけ多くの方に着用してもらいたいという思いのもと、目立ちすぎないシンプルなデザインと裏起毛を採用し、こちらも機能性を重視した商品になっているとのことです。



2商品ともに名古屋キャンパス内コパン3階のNES名古屋キャンパス店および、瀬戸キャンパス内E棟学生会館2階の丸善で販売しています。

海外からの ご来訪



2015.9.15

フィリピン共和国サン・カルロス大学の教員の方々が、学長を表敬訪問され、その後、人類学博物館と宗教文化研究所をご見学されました。

南山大学とサン・カルロス大学は2011年度から教員交換協定に基づき教員を相互に派遣しており、今年も春学期には総合政策学部のムンカダ教授がサン・カルロス大学へ赴きました。サン・カルロス大学からは、本年はガウト先生(写真左から4人目)が来てくださり、秋学期に英語で授業を行う「国際科目群」でテーマ科目などをご担当いただいています。



2015.10.8

在日アメリカ大使館と、有名なシンクタンクであるパンフィック・フォーラムCSISとの共催で、外国語学部英米学科の授業の一環として講演会を開催し、4名の方が講師として来学されました。講演会終了後には学長を表敬訪問されました。



2015.11.2

今年新規で交流協定を締結したアメリカ合衆国のPurdue University, Calumetの方々が、学長を表敬訪問されました。



2015.9.18

南山大学附属小学校1年生 オリエンテーリング

9月18日に、名古屋キャンパス構内で、南山大学附属小学校1年生のオリエンテーリングが行われました。

これは宿泊学習の一環で、大学を身近に感じ自然を大切にしようとする気持ちを育むこと、体験学習を通じて自ら問題を発見し解決していくといった自立的・能動的な学びの姿勢を身に付けることを目的として実施されました。

前日の雨でグリーンエリアの芝生が濡れていたため、まずはC棟の学食で昼食前のお祈りをし、持参したお弁当を食べました。その後、オリエンテーリングを開始し、グリーンエリア、G30教室、R棟ロビー、メインストリートといった大学施設を利用し、イエス・キリストの像やパッヘ神父の碑を探してスケッチをしたり、大学ならではの教室であるG30教室（600人収容）で小学校の教室との違いを探したりしました。また外国人留学生と英語だけを使って会話・質問をしたり、大学生へのインタビューを行ったりするなど、普段とは違った体験や交流を楽しみながら行いました。



2015.9.26

父母の集い

9月26日に、南山大学と南山大学後援会の共催により、名古屋・瀬戸両キャンパスで第43回「南山大学父母の集い」を開催しました。

全体集會では、ミカエル・カルマン学長、楠井祐次後援会理事長（名古屋キャンパス）、樋口和則後援会副理事長（瀬戸キャンパス）の挨拶に続き、本学担当者より学生生活、進路支援の方針および2015年度就職状況、国際教育について説明を行いました。

また、在学生4名と豊島明子教授（学長補佐）によるパネルディスカッション形式の講演会「未来を切り開く原動力～変化した就職活動を振り返って～」を開催しました。在学生が、採用時期変更に伴う就職活動の準備・対策、苦勞や不安、両親に感謝すること、後輩に伝えたいことなどを語り、会場からの質問に答えました。その他にも、学部・学科懇談会や指導教員との個別面談も実施しました。



2015.9.26-2015.10.24

2015年度明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業 「江戸の刑罰—応報的刑罰論の超克を目指して」

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は2010年度から連携協定を結び、収蔵品の交換展示や共同シンポジウムなどを開催してきました。今年度は、両館の資料を交換して展示する交換展示と、学芸員によるギャラリートークを開催しました。

9月26日から10月24日に、明治大学博物館による企画展「江戸の刑罰—応報的刑罰論の超克を目指して」を南山大学人類学博物館で開催しました。明治大学では、前近代における残虐で非人道的な拷問・刑罰のあり方を教育刑という理念に反する事例として、これを学生が批判的な見地から理解することを目標として1929年に刑事博物館が創設されました。今回の企画展では、現在の明治大学博物館が所蔵している江戸時代の刑事法制・刑罰関係史料の他、刑事博物館に関する資料の展示も行いました。

また、同じく9月26日から10月24日に、南山大学人

類学博物館による企画展「南島との出会い—今泉コレクションにみる民族造形美術品」を明治大学博物館で開催しました。ニューギニアをはじめとしてメラネシアやポリネシアの島々、オーストラリアにまで広がる今泉コレクションのうち、南山大学で所蔵している東ビスマルク諸島、ソロモン諸島以東の資料を展示しました。



2015.10.10

野外宗教劇「受難」

10月10日に、名古屋キャンパスのパッヘ・スクエアで第49回野外宗教劇「受難」の公演を行いました。

「受難」は古くから続く南山大学を代表する伝統行事で、イエス・キリストのエルサレム入城からゴルゴダの丘における十字架の死を経た復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生たちが演じる野外劇です。基本的に同じ筋を辿るストーリーにも毎年新たな解釈が加えられており、来場者の方々に毎年新たな楽しみを提供しています。

今年は「自分と向き合う」をテーマに脚本が作成され、また部員が増えたことでここ数年登場していなかった役や新たな役も加えられ、内容も変更されました。パッヘ・スクエアには霧がかかり虫の音が響き渡る中、迫真の演技が次々に繰り広げられ、今年も盛況のうちに幕を閉じました。



2015.10.14

2015年度防災訓練

10月14日に名古屋・瀬戸両キャンパスで防災訓練を行いました。今回は地震後に名古屋キャンパスではS棟、瀬戸キャンパスではB棟E棟を中心として火災が発生したとの想定で訓練を行い、多くの教職員・学生が参加しました。

名古屋キャンパスではS棟前の広場に災害対策本部を設置し、対策本部長の学長から担当職員に指示が

飛び、適切な対応を行いました。また、消火器、避難器具を実際に使用して非常時に即座に対応できるように訓練をしました。



2015.10.22-2015.10.23

南山大学附属小学校2年生オリエンテーリング

10月22日から23日に、南山大学附属小学校の2年生宿泊学習が瀬戸キャンパスで行われました。この宿泊学習は家族から離れて生活することを通して、身辺的・精神的な自立と仲間への奉仕・貢献の心・言動を養うとともに、南山大学の研究・学問の世界にふれることを通して、学問・自然への関心を高めることを目的に行われています。

1日目には瀬戸キャンパス近郊の海上の森での自然散策、瀬戸キャンパスキリスト教センターでの祈りの会、星空観察などを行い、2日目には総合政策学部成田靖子

准教授によるメダカの生態についての講義を受けました。講義では、実際に瀬戸キャンパス内にあるピオトープ（より自然に近い環境に近づけた人工的な池）に行ってメダカの生態を観察したり、実験室で環境変化によるメダカの体色変化などを観察したりしました。



2015.10.24

2015年度中学生講座「大学で、未来の自分を探してみよう！」

10月24日に、南山大学の知的財産を地域に還元することを目的として中学生向けの講座を名古屋キャンパスで行いました。例年、小学生向けの講座は開講していましたが、今年度初めて中学生向けに講座を開講しました。

講座は「世界では何が起きているか」「博物館は知の宝庫!」「ロボットの仕組みを知らう」の3つを開講し、大学の教員が研究を分かりやすく説明しました。参加した中学生は、普段とは違う大学での講義を受けて知的な刺激を



受けた様子でした。また、キャンパスツアーも行い、大学生の入試広報スタッフが大学内の施設を案内しました。

来年度以降は更に講座を増やして開講する予定ですので、中学生の皆さまのご参加をお待ちしています。

2015.11.7

受験生のための入試相談会・保護者のためのキャンパス見学会

11月7日に名古屋キャンパスで、一般入試・全学統一入試・センター利用入試の受験予定者の方を対象とした受験生のための入試相談会と、高校生の保護者の方を対象とした保護者のためのキャンパス見学会を同時開催し、937名の方にご来場いただきました。

受験生向けには学部説明会、入試説明会、入試対策講座を、保護者向けには大学概要説明、就職状況と就職サポート、南山大学生による就職活動体験紹介、入試説明会を実施した他、2016年度入試(2016年1月から2月出願)から導入するWeb出願についての説明会、個別相談コーナー、キャンパスツアーも行いました。



2015.10.28

CJSフェスタ

10月28日に名古屋キャンパスでCJSフェスタを行いました。CJSフェスタは、日本語を勉強する外国人留学生が所属するCJS (Center for Japanese Studies[外国人留学生別科]) が主催するイベントです。日本語レベルのクラス毎に教室に分かれて様々な企画が行われ、多くの南山生も参加しました。

日本語初級クラスでは、外国人留学生が一对一で日本人学生に自国の文化などを紹介し、日本語中級クラスでは私の国クイズ、言葉の定義ゲームなどを日本人学生・外国人留学生でチームを作り、一緒に考えながら楽しい時を過ごしました。



日本語上級クラスでは、外国人留学生が手作りの衣裳に着飾って流暢な日本語でショートドラマを演じたり、また別の教室では「私の国&日本のベスト10・ワースト10」を発表し、日本語で意見交換をしたりするなどのイベントを行いました。どの教室も笑い声が絶えない、楽しいイベントとなりました。

2015.11.15

2015年度南山大学・豊田工業大学連携講演会「『聴くこと、話すこと』一日頃の会話からカウンセリング、手話まで」

11月15日に、2015年度南山大学・豊田工業大学連携講演会を名古屋キャンパスDB1教室で行いました。連携講演会は、両大学の連携姿勢と成果を広く社会に周知することで社会的な認知度をあげると共に、地域一般の教養啓発をはかることを目的に行っているもので、今年で10回目の開催となりました。

今年のテーマは「『聴くこと、話すこと』一日頃の会話からカウンセリング、手話まで」で、南山大学からは人文学部心理人間学専攻岡田暁宜教授が「聴くことーカウンセリングの立場からー」、豊田工業大学からは工学部(外国語分野担当)原大介教授が「手話とはどのような言葉か」と題して講演し、多様なコミュニケーションについて説明されました。また、講演後には質疑応答の時間も設けられ、盛況の中、講演会は幕を閉じました。



2015.10.31-2015.11.3

大学祭

10月31日から11月3日に名古屋キャンパスで、11月1日に瀬戸キャンパスで、南山大学大学祭を開催しました。

名古屋キャンパス大学祭は「プラネタリウム」、瀬戸キャンパス聖南祭は「Re;creation」というテーマのもと、両キャンパス共に模擬店や教室企画、ビンゴ大会などを実施した他、ステージでの企画も充実し

ており、学生主体の大学祭は今年も盛況のうちに幕を閉じました。

南山大学同窓会主催、各種イベント盛りだくさんの「ホームカミングデー」も両キャンパス共に11月1日に同時開催され、多くの卒業生とその家族が母校に集いました。



2015.11.1-2015.11.4

韓南大学校法科大学(韓国)との学術交流会

南山大学法学部・法科大学院と韓国の韓南大学校法科大学は、毎年南山大学大学祭の時期に4日間程度の学術交流会を行っています。1年交代で日本ま

たは韓国で研究発表や議論をしていて、13年目となる今年は、韓南大学校で11月1日から4日に実施しました。

この交流会は、教員のみではなく、法学部・法科大学院の希望学生も参加しており、今年は「韓日刑事法の現代的

動向」をテーマに議論を交わしました。学術交流の他、懇親会も実施し、大学間の交流が積極的に図られました。



2016.3.20

2015年度南山大学卒業式

開催日時:2016年3月20日(日)

第1部 午後1時より
第2部 午後3時15分より

場 所:名古屋キャンパス体育館
内 訳:第1部

外国語学部、法学部、情報理工学部、
短期大学部、国際地域文化研究科、
法務研究科、理工学研究科、
数理情報研究科

第2部

人文学部、経済学部、経営学部、
総合政策学部、人間文化研究科、
社会科学研究科、ビジネス研究科、
総合政策研究科

問合せ先:総務課 (Phone:052-832-3112)

※保証人様宛の案内文書は、卒業が確定した学生
(2016年3月8日発表)にお渡しする予定です。



キャンパス統合 News

2015年度に理工学部ならびに理工学研究科が名古屋キャンパスへ移転しました。現在、2017年度の総合政策学部移転に伴い、名古屋キャンパス内で新教室棟と新食堂棟の建築が進んでいます。新教室棟は掘削工事が終わり、基礎工事が入りました。新食堂棟は順調に基礎工事が進み、12月からは躯体工事が始まります。

新食堂棟エリア



2015年8月



2015年9月



2015年10月



2015年11月現在

新教室棟エリア



2015年8月



2015年9月



2015年10月



2015年11月現在

将来構想募金のお願い

南山大学におけるキャンパス整備をはじめとする将来構想を実現するための諸活動に対する支援として、引き続き皆さまからの募金のご支援をお待ち致しております。

詳しくは大学Webページ「南山大学将来構想募金のお願い」をご覧ください。趣旨をご理解頂き、格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kigyo.html#bokin>



Information

2016年度学生納付金改定について

2016年度南山大学学生納付金について、2015年3月27日開催の南山学園理事会は、消費者物価指数などの外的要因、教育研究条件の改善ならびに経済的現況を総合的に勘案した結果、授業料・施設設備費を一部改定することを決定しました。

◎名古屋キャンパス学部学生

情報理工学部、理工学部を除く学部については、授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。外国語学部英米学科LL実習費は、1年次生および2年次生は現行の18,000円に、3年次生および4年次生は現行の9,000円に据え置く。

情報理工学部、理工学部については、授業料を現行の818,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

◎名古屋キャンパス大学院学生

数理情報研究科、理工学研究科、ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

数理情報研究科および理工学研究科については、授業料を現行の654,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

◎瀬戸キャンパス学部学生

総合政策学部については、授業料を現行の

718,000円に据え置く。2016年度入学生の施設設備費は240,000円に改定し、2015年度入学生は現行の240,000円に、2014年度以前の入学生は現行の210,000円に据え置く。

◎瀬戸キャンパス大学院学生

総合政策研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

社会科学研究科総合政策学専攻については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

◎南山大学短期大学部

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

退職

2015年9月30日付

◎人文学部

講師 金田 裕子

新任教員紹介

2015年10月1日付

◎社会倫理研究所/経済学部

講師 籠橋 一輝 (専攻分野:環境経済学)

◎社会倫理研究所/総合政策学部

講師 森山 花鈴 (専攻分野:行政学、政治学)

本学名誉教授瀨口吉隆氏のご逝去

本学名誉教授の瀨口吉隆氏(69歳)が、2015年9月10日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

岡室美由紀様 立松 弘孝様 安藤 勝廣様
早野 俊成様 森田 智英様 安藤すづ代様
藤井 誠様 磯部 伸子様 櫻井 健吾様
小出 辰夫様 齋藤 立子様 株式会社 山田商会
中島 経年様 石原 秀晃様 代表取締役 清水 順二様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

浪打 榮光様 名古屋栄ライオンズクラブ 様(絵画)
株式会社 名古屋銀行 様
澤田 正彦様
故山中仁美 経済学部准教授のご遺族 様
田村 誠久様